

原子燃料サイクル事業の現在の状況について

1. 共通

(1) 日本原燃(濃縮・埋設事業所加工施設及び廃棄物埋設施設、並びに再処理事業所再処理施設、廃棄物管理施設及び MOX 燃料加工施設)の事業指定(許可)変更届出

令和 2 年 4 月 1 日、濃縮・埋設事業所加工施設及び廃棄物埋設施設、並びに再処理事業所再処理施設、廃棄物管理施設及び MOX 燃料加工施設の事業指定(許可)に係る変更届出書を原子力規制委員会に提出した。

変更した内容は、以下のとおり。

<届出内容>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」の改正(平成 29 年 4 月 14 日公布、令和 2 年 4 月 1 日施行)に伴い、既許可の事業指定(許可)申請書に、原子力施設の品質管理に必要な体制の整備に関する事項を新たに記載することが求められたことから、必要な事項を追加する。

(2)新規制基準への対応状況

各事業とも補正書の記載の適正化を行うなど、審査は最終段階であり、引き続き審査合格に向けて対応している。

<低レベル放射性廃棄物埋設事業>

・3号埋設施設の増設等に関する補正書について、記載内容の適正化等を行っているところであり、5月中には提出する予定である。

<高レベル放射性廃棄物管理事業>

・令和 2 年 4 月 3 日及び 4 月 17 日に再処理の補正内容を反映した補正書を原子力規制委員会に提出した。

<再処理事業>

- ・再処理工場の審査については、令和 2 年 2 月にプラント側、地震・津波側ともに補正書の元となる整理資料の説明をすべて終え、3 月 13 日に補正書を原子力規制委員会に提出した。
- ・3 月 19 日及び 26 日の審査会合において技術的な論点はないとのコメントを受けたが、補正書の内容について、整理資料から補正書への反映ができていない部分があると指摘を受けた。
- ・当該審査会合での指摘を受け、4 月 13 日に補正書を再提出したが、4 月 14 日の審査会合で再度不備を指摘された。
- ・審査会合における指摘を踏まえ、審査のとりまとめ責任者が、指摘を受けた項目について、補正書本文と添付書類それぞれの記載対象箇所と記載内容を担当者に指示し、展開させるなどの対策を行い、4 月 28 日に補正書を再提出した。
- ・令和 2 年 5 月 13 日の原子力規制委員会において、再処理事業変更許可申請書に関する審査書案が了承された。

<MOX 燃料加工事業>

- ・4 月 14 日の審査会合において、設計基準の条文には大きな論点がないことを確認した。
- ・MOX 燃料工場の補正書についても並行して作業を進めており、5 月中には提出できるよう準備を進めている。

2. ウラン濃縮事業

(1) 運転状況

生産運転停止中

3. 低レベル放射性廃棄物埋設事業

(1) 低レベル放射性廃棄物受入れ・埋設実績

		受入れ本数	埋設本数
令和2年4月の実績	1号埋設設備	0本	0本
	2号埋設設備	0本	192本
令和2年4月の合計		0本	192本

(2) 令和2年度 低レベル放射性廃棄物の受入れ計画

受入れ時期	受入れ計画数量	搬出元	
令和2年度 6月～3月	11,530本 (LLW-2型)	関西電力(株) 美浜発電所 高浜発電所 大飯発電所 日本原子力発電(株) 敦賀発電所 東海第二発電所 北陸電力(株) 志賀原子力発電所 中部電力(株) 浜岡原子力発電所 九州電力(株) 玄海原子力発電所 中国電力(株) 島根原子力発電所	

4. 高レベル放射性廃棄物管理事業

(1) 返還ガラス固化体受入れ・管理実績

	受入本数	管理本数
令和2年4月の実績	0本	0本

5. 再処理事業

(1) 工事の進捗状況(令和2年4月末現在)

再処理施設本体工事進捗率 約99%

(2) アクティブ試験の進捗率(令和2年4月末現在)

総合進捗率 約96%

(3) 使用済燃料受入れ量、再処理量

		受入れ量		再処理量	
令和2年4月の実績	PWR	0体	0トンU	0体	0トンU
	BWR	0体	0トンU	0体	0トンU
令和2年4月の合計		0体	0トンU	0体	0トンU

(4) 六ヶ所再処理工場に係る新設等計画書に関する事前了解の受領

令和2年2月6日に青森県及び六ヶ所村へ提出した六ヶ所再処理工場の新設等計画書について、令和2年2月12日、事前了解を受領した。

今回、事前了解を頂いた計画書は、新規規制基準への適合性確認のため原子力規制委員会へ申請した再処理事業変更許可申請(平成26年1月7日付)の一部補正に先立ち、安全協定に基づき提出したものである。

変更した主な内容は、以下のとおり。

<竜巻対策のための再処理設備本体用の安全冷却水系冷却塔Aの移設(新設)>

前処理建屋の屋上に設置している安全冷却水系冷却塔Aを地上に新設するとともに、竜巻防護対策(飛来物防護板及び飛来物防護ネットの設置)を行う。

<放射性物質の貯留設備の設置>

重大事故として想定する臨界事故及び有機溶媒等による火災又は爆発の対策として、気相中に移行した放射性物質をより確実に閉じ込める対策として必要な貯留設備(貯留タンク等)を設置する。

6. MOX 燃料加工事業

(1) 工事の進捗状況(令和2年4月末現在)

工事進捗率 約 11.8%

7. トラブル等一覧

件名	日本原子力発電(株)東海第二発電所への低レベル放射性廃棄体における錆による損傷の確認
日時	令和2年3月19日
場所	低レベル 廃棄物管理建屋
事象概要	令和2年2月28日から29日に受け入れ一時貯蔵している日本原子力発電(株)東海第二発電所の低レベル放射性廃棄体(200リットルドラム缶 832本)の定置に向けた検査をしていたところ1本の底部に錆による損傷があることを確認した。当該廃棄体の表面汚染測定を行った結果、検出限界未満であり、周辺環境への影響はないことを確認した。 当該廃棄体については、搬出元の電力会社において詳細調査を行うため、令和2年5月7日に返送した。 <返送した廃棄体> 2号埋設対象廃棄体(充填固化体) 1本
原因	調査中。
対応	原因調査結果を踏まえて対応。
件名	当社敷地内(管理区域外)における火災の発生
日時	令和2年3月21日11時30分頃
場所	緊急時対策建屋(建設中)の工事現場(管理区域外)
事象概要	協力会社作業員が電線管サポートの溶接作業を行っていたところ、スパッタ(溶けた金属)が難燃シートを貫通し、その下にある養生シートに引火したため、直ちに消火活動を行い消火し、その後、公設消防に通報した。 公設消防による現場確認の結果、12時05分に火災と判断されるとともに、鎮火が確認された。負傷者はなく、本事象による周辺環境への影響もない。現在、現場作業は中止している。
原因	調査中。
対応	原因調査結果を踏まえて対応。

以上

「詳細については、当社ホームページから確認することができます。(https://www.jnfl.co.jp/)」